

出席

- <委員>閑喜美史(会長)、鳥山茂(副会長)、窪田三穂、福井勇、山田義昭、重永晃太郎、
<学校>彌永校長
<事務局>吉田事務長、田路教頭、加藤教頭、丸尾首席、箕進路部長

傍聴者 なし

- 1 校長あいさつ
- 2 事務局からの報告事項
 - ① 保護者からの意見について
 - ② 高等部3年生の進路希望状況について
 - ③ 令和5年度学校教育自己診断の結果及び分析について
 - ④ 令和5年度学校経営計画の達成状況について
 - ⑤ 令和6年度学校景敬計画(案)について
- 3 質疑、協議
- 4 校長あいさつ

*上記のとおり、報告等を行い、各委員から次のような質問及び意見等をいただいた。

(カッコ内は事務局等からの回答)

- ・保護者からの意見書について

(提出なし)

- ・学校教育自己診断に係る保護者の回答率が昨年度より低くなった理由は分析できているか。

(特定はできていない。来年度も保護者へ働きかけていく。)

- ・学校教育自己診断の結果において、教員の個々の教育活動への評価が低い傾向がある。保護者の評価はおおむね高いので、教員は自身の個々の業務に対して高評価をしてもいいのではなかろうか。学校教育自己診断は、教員と教育活動等に関して共有したい内容を問うことで、教員が教育活動への振り返りができるようにしていただきたい

(質問項目の表現に「真剣」「積極的」等の文言のあることが、教員の肯定的評価へつながっていない可能性が考えられる。次年度は質問項目の表現を検討したい。

- ・「子どもは学校を楽しんでいる」「専門性の向上を図っている」の2項目について、保護者の評価が教員よりも高い。保護者が高評価していることに、教員は自信をもってほしい。子どもたちがもっと楽しくなったり、専門性を向上させたりするのに、なにか手だてがあると教員が考えているのであれば、提案できる場をもっていただきたい。
- ・教育活動への取組に関して、「個別の教育支援計画」、「個別の指導計画」にもとづいて進めているのだから、教員がもっと肯定的に評価できるよう、質問の仕方を工夫してみてもどうか。

- ・令和5年度学校経営計画の達成状況に関して、保護者との連絡方法についてSNSの活用がよりいっそう進んでいる。教員の「働き方改革」の促進にもつながると考えるので、今後も継続していただきたい。
 - ・一斉退庁日の設定の取組について、教員の業務内容の多様性を踏まえると、全員が退庁できるとは考えにくい。もっと設定日を増やしたり達成指標の工夫をしたりすることも必要である。
 - ・交流及び共同学習の推進に関して、居住地校交流へのニーズが高いことがわかった。ひきつづき、地域の小、中学校と連携し、取組を継続していただきたい。
-
- ・「地域情報」の取り扱いについて、情報発信していただけるとありがたい。
 - ・防災の取組に関して、避難訓練を工夫して実践していることがわかった。実際に災害が起きた時、支援を必要とする子どもの保護者は、支援学校への非難を希望していると、聞く。設置者や関係部署との調整が行われていると聞くが、ひきつづき検討を重ねていただきたい。
 - ・令和6年度の学校経営計画（案）に関して、「魅力ある授業づくり」や「指導力の充実・向上」をめざして教員による「相互授業参観」が計画されている。非常によい取組と考えられるので、
 - ・社会的に「人材不足」と言われている。貴重な人材である初任者等が指導や学校業務を続けていけるよう、OJTなどにより、次年度も人材育成を進めていただきたい。
 - ・「授業の研究・実践を推進する」は、「授業実践を推進する」にするとよいと考える。
 - ・「働き方改革の推進」について「業務の平準化を図る」という目標は誤解を招くのではないか。「教員の業務の分担を行い『働き方改革』を進める」とするとよいのではないか。
 - ・地域との交流について、学校間交流にも取り組んでいる、とのことなので、継続していただきたい。
 - ・高等部卒業後、集団になじめない傾向を有する卒業生が増えてきている印象である。在校中になにか手だてを講じていただけることを期待する。
(児童生徒一人ひとりの自立活動を充実させていく。)
 - ・本校の学校運営協議会における報告等を聞き、地域の障がい、障がい者理解が促進されていると感じている。ひきつづき、実践を重ねていただきたい。
 - ・児童生徒の進路に関して、企業等との調整が必要であれば、商工会議所を窓口として、ご活用いただきたい。